

大事協だより

大島地区公立小・中学校事務職員協会 研修部
第21号 2008年6月発行



<新年度始まりました！>

梅雨空の下、新しい環境にも皆様落ち着かれてきた頃ではないでしょうか。蝉の声も聞こえてきました。

今年度の編集担当地区の奄美市笠利ブロック・喜界町・与論町の皆様を中心に、皆様と一緒にこの紙面を作っていけたらと思います。よろしくお願いします。

○大事協は次のような意義のもと設立・活動しています○
○御確認をお願いします○

<協会設立の基本理念に則り、 更なる発展を目指して活動する。>

- ①大島地区小・中学校事務職員全員参加の「輪(わ)＝会」を設立する。
※情報交換の場として(地理的条件の克服)
- ②当分の間は、地区内の緩やかな繋がりを持つ会として。
- ③「資質向上」につながる会として。
- ④今後の大島地区内における「学校事務」について考える場 意見交換の場として。
- ⑤実務面での研修を補うものとして。

<役員紹介>

5月29日(木)の総会にて、各市町村代表者の中から役員が選出され、承認されました。書記・会計・監事についても下記のように選出されましたので、あわせてお知らせいたします。

今年も皆様と一緒に頑張っていきますので、よろしくお願いします。

職名	氏名	勤務校	職名	氏名	勤務校
会長	泉 一	戸田小学校	会計	川崎 亮	小湊小学校
副会長	幸多勝弘	天城小学校	監事	上田久夫	市小中学校
副会長	藤崎久子	龍南中学校	監事	針原和江	芦花部小中学校
書記	松久保理恵	田小学校			

◇泉会長より一言◇

今年度は、新しい会長を迎えて、新たな出発をと思っていたのですが、今年度も会長を引き受けることとなりました。しかし、副会長に同じ歳の天城小の幸多先生、書記に新採3年目田小の松久保先生を執行部に迎えることが出来、また新たな気持ちで出発できそうです。今年も県事協と連携しながら、設立の基本理念を忘れず、独自の事業を少しでも展開できればと考えています。

「大事協だより」も今年度から担当地区の理事を中心に会員の皆様にも直接紙面作りにも参加していただく計画です。また、お互いの情報交換に役立つように総会資料に各市町村の研修計画も載せてありますので役立ててもらえればと思います。

本年度も、よろしくお願いします。

◇副会長を務めて頂いた坂嶺小学校・徳 哲也先生より一言◇

大事協書記として2年間、副会長として1年間、無事、任務を終えることができ、正直、ホッとしています。特に最後の1年は認定事務や共同実施も加わり、喜界から出て行くのは大変な時期もありました。しかし、執行部・理事の先生方と出会い、ご協力いただき、大事協の運営に携わることができたことは、多くのことを学ばせていただき、大変貴重な3年間でした。

ご迷惑もおかけしたと思いますが、今、思えば引き受けて、よかったと本当に思います。(みなさんもぜひどうぞ...)

大事協設立から頑張っていた先生方に感謝すると共に、これからは、多くの地区内の事務職員が集い、関わり合うことのできる大事協にますます発展することを祈っています。

3年間ありがとうございました。

◇書記を務めて頂いた笠利小学校・森重先生より一言◇

2007年度、執行部の先生方に支えられながら、書記をなんとか務めることができました。この場をお借りして御礼申し上げます。私は、大島地区が初任地で、経験年数が少なく、執行部に入るまでは、大事協という組織がどんなものなのか、何となくしか知りませんでした。執行部に入り、実際の活動などを知り、大事協が、各事務職員を繋ぐための組織であることを強く感じました。今年度は、理事として、この大事協に協力していきたいと思っています。

<地区交流会多数参加

ありがとうございました>

5月29日(木)第1回地区事務職員研修会の終了後、地区交流会を開催しました。当日船で帰路について喜界町を始め、事務所の方々を含め86名の出席がありました。ありがとうございました。時間がない中、準備・受付をしていただいた福利厚生部の方々、ありがとうございました。

地区交流会の収支については、下記のとおりです。

1. 収入
 - ①地区交流会費 85名×3,000円=255,000円
 - 3名×4,000円=12,000円
 - ②福利厚生部活動費より交流会補助として 93,000円
 - 合計 360,000円
2. 支出 料理・飲み物代 360,000円
3. 残金 0円

以上 大事協 会計 川崎 亮

<県事協よりお知らせ>

2008年3月6日に県事協評議員会にて各地区資料が届いています。内容は下記の通りです。御覧になりたい方は、龍南中・藤崎まで連絡をお願いします。

(1)始良地区事務職員研修会

(始良・伊佐教育事務所)

日時：平成19年5月22日(火)13:00～16:30

内容：教育事務所の機構・事務分掌について
旅費事務について・給与電算等報告について・社会保険事務について・非常勤講師関係事務について・服務等について

(2)出水地区事務職員研修会

(北薩教育事務所出水支所)

日時：平成20年2月8日(金)10:30～16:55

内容：年度末及び年度始めの事務処理について
年度末及び年度始めの電算報告等について
分科会「共通テーマ」：21世紀に生きる学校事務職員像

分科会：①新たな学校事務の姿を切り開く分科会②より効率的な学校事務を考える分科会③事務職員のパワーアップを目指す分科会

(3)地区小・中学校事務職員研修会

(大隅事務所曾於支所)

日時：平成20年2月7日(木)9:30～16:50

内容：講義(県境職員互助組合・県教職員共助会
公立学校共済組合鹿児島支部)

・全体会(全国公立小中学校事務研究大会参加報告、志布志地区・宮崎県管外研修視察報告、大隅地区・熊本県学校事務研究大会参加報告)

・分散会(「事務の共同実施」、事務支援及び学校財務に関するテーマ研修)

・定期監査結果等について

・年度末年度当初の事務処理について

(4)肝属地区小中学校事務職員研修会

・分科会報告①学校事務職員の仕事②教育予算について③学校事務職員の職務と制度④認定権限委譲に伴う学校事務

・管外研修視察報告：佐賀県小城市事務研究会(共同実施試行における研修、学校事務職員の標準的職務内容について)

(5) 指宿地区小中学校事務職員研修会資料
「日常の学校事務の実態と標準的職務表との関わり」



<各地区からのたより>

今回の原稿は、龍郷町より届きました。ありがとうございます。次号は、10月発行予定です。原稿は、奄美市笠利ブロックへお願いいたします。

各市町村の研修会での様子、様々な取り組み、写真、趣味等の原稿もお待ちしております。

○龍郷町事務職員研修会について○

龍郷町事務職員会(龍北中学校・加川)

龍郷町では「時代の要請に応じた学校事務の工夫」という研修テーマをもとに、一年間研修をしていくことになりました。月初めに3ブロックに分かれて、認定事務の研修を中心に、月末に全体研修を実施しています。

各学校で申請中の手当認定を、チェック表で確認をしながら実施しています。チェック表の点検項目を修正しながら、より使いやすいものに改善していく予定です。全体研修では研修部員4名で司会と記録を交互に分担しながら行うことにし、忘れないうちに研修会の反省をまとめ、年度末のまとめに役立てる予定です。本年度は県の定期監査に2校もあたり、めでたい年です。いくつか、指摘されたことをお互いに報告し、事務の改善に役立てていきたいものです。県の定期監査の反省等は後日、大島教育事務所から報告されると思います。その中で一つ、「出張用務の完了から支払いまで二月半もかかるのは遅すぎるのでは」という監査員の意見がありました。学校と事務所との協力が求められたそうなので、早く支払いができるように事務所にもお願いをし、私たちが旅費請求を早めに、忘れずに行いたいものです。

学校職員向けの事務だより「ひりゅう」も126号目をむかえ、職員が少しでも目を通してできるように工夫を凝らしています。今回はジグソーパズルに取り組んでみました。今までもクイズ形式で職員から質問を受ける学校もありましたので、期待しています。年3回の発行なので、毎回似たような記事になるのですが、職員間の井戸端会議の話題になれば、うれしいです。メンバーが変わっても長く続けられるように頑張ります。

学校事務の確立のために支援組織の活性化を。そして、子どもたちのために各学校での教育条件整備に取り組みたい。あくまでも学校にいてこそ事務職員です。



伊仙町から便りが届きました。

一つは、喜念小学校・永江武久先生からです。

内容は、今大河ドラマで話題の「篤姫」が活躍した頃のお話です。黒砂糖。藩の財政再建策。

永江先生が、研究し、まとめたものもの紹介です。この紙面では、全部を掲載できないので、「号外」で紹介します。是非、お読みください。

さらに詳細を知りたい方は、時間の許す限り、

永江先生が、答えていただけるかもしれません。

もう一つは、鹿浦小学校・久保芳則先生からです。映画のお話が二つ届きました。そのうちの一つを紹介します。どこかの事務職員が出演したあの映画のお話です。



○「母べえ」 監督山田洋次 主演吉永小百合○

伊仙町立鹿浦小学校 久保芳則

山田洋次「武士の一分」、吉永小百合「北の零年」からの作品で、二人が組んだ心待ちした期待の最新作であった。それは期待に違わず、心地よい満足感を味わうことができた。

原作は、黒澤 明監督映画のスクリーン(映画の撮影に立ち会い、撮影の状況を記録する人)を務めた上野照代氏の自伝的小説である。

ストーリーは、昭和15年の東京が舞台。お互いを「父べえ」「母べえ」と呼び合う夫婦と2人の女の子の家族の物語で、夫は戦争反対を唱える時代の異端者として投獄されてしまう。

妻、娘達との手紙のやり取り、夫の教え子との交流、そして夫の妹、叔父、実父との関わりを通し、やがて夫の獄中死、教え子の戦死と大きく厳しい時代を必死に生き抜いた女性の物語である。

吉永小百合は、悲しみ、苦しみ、喜びを確かな演技力で作品に品格を与えた様に思う。

しかし、小百合さんは割烹着がよく似合う。

小百合さんは、当年62歳にして映画設定上30歳半ばとして描かれているのであるが、違和感がある筈である。しかし女房と共に違和感なしの結論に至ってしまった。これは、驚くべきことだと思ふ。年齢のことでの監督とのエピソードを紹介すると、小百合「年齢の問題はないのでしょうか。」に対し、監督「当時の女性は少し疲れていました。」と何とも愉快的な回答をしている。彼女の日常の節制と努力、そして映画に対する真摯な思い入れ、映画ファンの期待に対する返事が監督のアレンジで見事に演出された作品と思う。子供にも見せて、当時の時代背景を語り合うのも良いと推薦します。確かに素晴らしい映画に仕上がっていることを十分に認めます。ただ私は、ここでうまく表現出来ないけれども、この作品が余りにも吉永小百合過ぎたと思うのだけれど。

映画ファンとして、小百合ファンとして、私がとても気に入っている周防 正行監督(シャルウ イーダンス、それでもボクはやっていない)そして小泉 堯史監督(雨あがる、阿弥陀堂だより、博士の愛した数式、明日への伝言)の作品に出演してほしい。是非、是非みたいものだ。

この映画の中で食事の場面がとても印象的だった。ごはん、みそ汁、そしてどんぶりに漬け物のようなものが盛られていた。これは、中学校までのわが家の食事と全く同じだったからです。9人家族、2つのちゃぶ台。大きなどんぶりに山盛りに盛られた大方は漬け物、らっきょう、時には塩漬けのトビウオ、野菜のテンプラ、年に2・3回の鶏の唐揚げがあった。楽しい食事は、その山の取り崩しを無言で争った。末っ子の私は、兄、姉に負けじと箸と口を動かした。ごちそうはなんと言ってもカレーだった。大きなジャガイモ、ニンジン、タマネギ、そして少ないけれど豚肉も確かに入っていた。我が家では、ソースをかけて、どんぶりの中に入れて、水も流し込んだ。その食感は今も忘れ難い。母べえは食べる手を休めて大声で笑い、父べえは、静かに笑っていた。

母べえが死んで10年近くになり、私も還暦を迎える年齢になった。近年、一層母外としく思える。時々母を呼んで、呟くことだってある。実にいとしい。

外国の格言に「神はいつも、どこにでもいられるという訳ではない。そこで神は母親をつくった。」という美しい言葉がある。母親の果たす役割の大きさを表したものであるが、子供への虐待、育児放棄の等の悲しい事件は多い。当然な事として自分の子供が人を殺す、人に殺されることを望む母親なんて決していない。現在母親である人、これから母親になる人にこの格言を捧げたい。イヤ、母親から生まれた全ての人に捧げたい。

尚、父親も同様に大きく大切な役割を担っています。因みに父の日は、6月第3日曜日です。

<今後の日程>

・第2回 理事会

日時：2008年10月

(第2回地区小中学校事務職員研修会前日)

※時間・場所については、詳細が決定次第、公文を発送しますので、よろしく願います。

○編集後記○

大島地区へ初めていらっしゃった方々、ようこそ！それぞれの思いのある、奄美の暑い夏、元気で乗り越えましょう！